

トークサロンこの1年

今年度ももう終わりです。この1年、会員の皆様ご苦勞様でした。昨年4月21日の総会から始まった今年度の事業も、各メンバーの努力によって一つ一つ達成されたきました。

今回の会報では、ネットワーク委員会の手で開催された「トークサロン」を振り返ります。トークサロンは市民と市民をつなぐ市民会議らしいユニークな試みです。

今年のトークサロン一覧

	開催日	テーマ
第13回	6月30日(土)	「湖と森の郷を創る会」の方々の話から、平成の合併と市民自治を考える
第14回	7月29日(日)	次世代につなぐ学生ボランティア～さがみはらを舞台に活躍する大学生達～
第15回	9月2日(日)	大沼小学校おやじの会
第16回	9月29日(土)	企業の社会貢献
第17回	11月3日(土)	外国人留学生をゲストとし、日本と異なる各国のお国事情を話してもらう
第18回	12月22日(土)	大学生(桜美林大学、麻布大学)をゲストに招き、環境分野を中心に、それぞれの活動状況を話してもらう
第19回	2月9日(土)	市民活動の支援について、それぞれの活動状況を話してもらう

第13回 (参加者23名)



湖と森の郷を創る会が誕生する契機となったテレビの企画番組「平成の大合併」のビデオを見た後、合併して一年目の相模湖町の実体と住民の声を聴いた。合併したことによって、行政や議会はどんどん遠くなってしまった。住民の声

をどの様に中央へ届けたいか・・・この地域にふさわしい自治のあり方を考える良い機会であるのに、全て行政手法が先行し相模原方式が取り入れられている事に苛立ちが募る。等の意見が出された。短い時間でまとめは出せなかったが「住民の意見を丁寧に聞くプロセスが本当に必要な事・・・」との言葉が胸に残った。継続して話し合いの場を持ちたいテーマである。(滝口)

をどの様に中央へ届けたいか・・・この地域にふさわしい自治のあり方を考える良い機会であるのに、全て行政手法が先行し相模原方式が取り入れられている事に苛立ちが募る。等の意見が出された。短い時間でまとめは出せなかったが「住民の意見を丁寧に聞くプロセスが本当に必要な事・・・」との言葉が胸に残った。継続して話し合いの場を持ちたいテーマである。(滝口)

第15回(参加者22名)

第15回「おやじの会、これまでとこれから」平成19年9月2日(日)の午後、相模原市立大沼小学校おやじの会の



方々とその立ち上げに関わった同じく光が丘小学校の喜早校長をゲストに迎え、おやじの会の活動について伺いました。会場には他の地域のおやじの会の会員やこれからおやじの会を立ち上げようとしている方も参加され、フリートークでは熱心な意見交換が交わされ、終了後には固い握手が交わされる一コマもありました。このトークサロンがきっかけとなってつながったネットワークが今後どのように育まれていくのか、とても楽しみです。ご参加いただきました皆様、どうもありがとうございました。(鹿野)

第16回 (参加者11名)

ジャスコ相模原店の柳澤副店長さんと「れすとらんハーモニー」を経営しているスタッフサービス・ビジネスサポートの杉山さんをゲストにお招きし、企業の社会貢献をテーマに、開催しました。

ジャスコ相模原店の「黄色いレシート」の仕組みや障害者の「やる気」「自信」を取り戻すことを目標に運営している「れすとらんハーモニー」のお話がありました。実際に行われている企業の社会貢献の説明を聞き、市民活動団体と企業との間で、協働できる部分が少なくないと感じました。

今回のトークサロンをきっかけとして、ジャスコ相模原店のパブリックスペースでのパネル展示を開催するなど成果がありました。今後も、企業に対して、積極的にアプローチしていく必要性を感じました。(神田)



ゲストのお二人

第17回(参加者16名)

ジャイマン・ピムスリさん(タイ), 岳海霞さん(中国), マリア・サリュコワさん(ロシア)の三人の留学生に話していただいた。日本へ来た時のカルチャーショックを聞いて、こちらがショックだった。

ジャイマンさん: 麺類を食べるときに音をたてるのはタイでは失礼になる。電車の中で体がほかの人と触れるのにショック。日本では時間を守るが、タイでは10~15分の血債はOK。授業中に化粧する学生に驚いた。今困っているのは漢字。

マリアさん: 地震を初体験。1年中莓がある日本(ロシアでは7月だけ)。家族関係が冷たい日本人にびっくり。私は父親と1時間電話で話す。今は父親の仕事の関係で家族は千葉に住んでいるので毎日家に電話する。ロシアに帰ると日々緊張するが、日本に戻ると安全なのでほっとする。

岳さん: 日本へ来ることを皆に反対された。しかし、日本の言論の自由, 民主主義が好き。冬でもミニスカートをはいていることにはショック。割り勘制にびっくり, 中国では交



替で1人が払う。日本は物価が高くて困っている。

参加者との交流では、日本人からの質問に3人とも

丁寧に答え、今日のようなチャンスがあったらまた参加したいとのコメントがあった。我々日本人にとって当たり前のことも、彼女たちにとってはカルチャーショックになる。逆に私たちも他国の文化, 習慣を理解し, 国際化を言葉だけでなく, 民間レベルで進めていきたいと思う。(益子)

第18回 (参加者14名)

地球温暖化防止対策が今世紀の課題になるだろうということで, 環境問題と取り組んでいる地元大学生の活動の半紙を聞く。麻布大学・淵野辺ボンバイエは(アフリカの言葉で打倒の意)すなわち無関心をやっつけろということで, うちのべ商店会, 町内会と協働で催事の際のゴミ分別, 回収を通じて地元小学生, 中学生への環境学習をすすめている。

桜美林大学・アジアウイングリングは風車を制作して環境エネルギー学習を実践している。第1号機は学園のスクールバス乗り場に, ついで第2, 3号機はモンゴルの孤児院, 小学校に設置。なぜモンゴルかは, モンゴルからの留学生が同大学に在籍していることと, モンゴルでは火力発電が主流。その煙害が理由で飛行機もフライトしないという。制作費, 運搬費が高額で(約200万円)企業の助成金を求めたいところであるが, 学生自身の力で実行したい思いがある。それにしても毎月のアルバイト代をつぎ込んでいる苦



労は手に取るようである。相模原大学地域連携コンソーシアムが

核となって, 大学に1基ずつ風車を設置するとか, 節電コマを利用して照明火を削減していくとか, 次の方法を考える時期にきているのではないかとの意見があった。(椎野)

第19回(参加者24名)

市民活動を支援するNPOに集ってもらい, 活動状況や将来計画, 課題について報告してもらい, 意見交換しました。

発表団体が6団体と多く, 発表時間が少なく, 活動状況の報告が中心となり, 将来計画や課題などに触れる時間が少なく, また, 生々しい突っ込んだ議論ができなかった事は残念でした。

各団体とも, 限られた人材で, 厳しい運営をしているとの感じを受けました。また, アンケートに



よると, 各団体とも行政との関わりが強く, 支援NPOが連携して行政へ働きかけるなど, こういった会を有効に活用すべきだとの意見がありました。ネットワーク委員会内部でも, 今後もこのような情報交換や意見交換の場を定期的に開催していくべきだとの意見があり, 来年度の定例会のテーマとして計画していくこととなりました。(神田)

#####

第14回のトークサロン“次世代につなぐ学生ボランティア～さがみはらを舞台に活躍する大学生達～”は, 23名の参加者があって行われたが, 残念ながら今回のレポート集には掲載できなかった。

今年度の様々なトークサロンは大変意欲的であった。一回のサロンで課題を共有することはできたと思うが, 今後も新たな企画が行われ, 少しでも活動が活性化されることを期待するものである。新年度も, より多くの会員の参加を得て継続されることを望む。(西本)